

学校法人 高松学園

令和4年度事業報告書

I 法人の概要

1. 基本情報

(1) 学校法人高松学園

(2) 主たる事務所の住所：長野県飯田市松尾代田 6 1 0

電話番号 0265-22-4460

F A X 0265-22-4474

2. 建学の精神

高松学園初代理事長である高松了秀は、真宗の教育を実現すべく、「新しい時代にふさわしい教養豊かな女性を、伝統の念仏の心をもとに育てたい」という願いのもと、学校法人高松学園を創設した。本学園では、この願いを「うつくしく生きる」ということばで表現し、建学の精神としている。

「うつくしく生きる」には、「うつくしい生き方」「うつくしい世界」というものがあることに気づかないといけない。そして、私自身が「うつくしい生き方」をしておらず、また、「うつくしい世界」を生きていないということに気づくことが必要である。

「うつくしい生き方」や「うつくしい世界」を求め続けていく生活の中で、「うつくしい生き方」や「うつくしい世界」にたどり着くことができるのだ。したがって、「うつくしく生きる」とは、手段ではなく、結果である。「うつくしく生きる」ことを手段とすると、かえって醜い生き方をしてしまうことになる。

3. 学校法人の沿革

大正 3 年 4 月	飯田市伝馬町善勝寺境内にて慈光幼稚園開園
昭和 3 3 年 1 0 月	学校法人高松学園認可
昭和 3 4 年 4 月	飯田女子高等学校開校
昭和 4 1 年 8 月	慈光幼稚園を学校法人高松学園に編入
昭和 4 2 年 4 月	飯田女子短期大学開学（入学定員 家政科 1 0 0 名、保育科 5 0 名）
昭和 4 3 年 4 月	飯田女子短期大学家政科を家政専攻（入学定員 5 0 名）と食物栄養専攻（入学定員 5 0 名）に分離
昭和 4 4 年 4 月	飯田女子短期大学家政科家政専攻の入学定員を 1 0 0 名に変更
昭和 4 7 年 4 月	飯田女子短期大学家政科を家政学科に保育科を幼児教育学科に名称変更
昭和 5 1 年 4 月	飯田女子短期大学幼児教育学科の入学定員を 1 0 0 名に変更
昭和 5 4 年 1 0 月	学校法人高松学園創立記念式典を挙行
昭和 5 9 年 2 月	慈光幼稚園創立 7 0 周年記念式典を挙行
昭和 5 9 年 4 月	飯田女子短期大学幼児教育学科の幼児教育コースと社会福祉コースを設定
昭和 6 0 年 4 月	学校法人信州学園より伊那女子高等学校の経営移管を受け、伊那西高等学校と校名変更し開校
昭和 6 1 年 5 月	飯田女子短期大学創立 2 0 周年記念式典を挙行
昭和 6 3 年 1 0 月	飯田女子高等学校創立 3 0 周年記念式典を挙行
平成 5 年 1 0 月	慈光幼稚園創立 8 0 周年記念式典を挙行
平成 8 年 4 月	飯田女子短期大学看護学科開設（入学定員 6 0 名、修業年限 3 年）
平成 9 年 4 月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻に生活デザインコースと健康生活コースを設定
平成 1 1 年 4 月	飯田女子短期大学に専攻科地域看護学専攻（入学定員 1 5 名、保健師養成）・専攻科助産学専攻（入学定員 5 名、助産師養成）を開設。いずれも修業年限 1 年
平成 1 2 年 4 月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻を家政専攻（入学定員 6 0 名）と生活福祉専攻（入学定員 4 0 名、介護福祉士養成）に分離

		また家政専攻健康生活コースを保健養護コース（養護教諭養成）に、幼児教育学科社会福祉コースを福祉心理コースに名称変更
平成13年	4月	飯田女子短期大学に保育士資格を有する者を対象とする介護福祉士養成課程として専攻科福祉専攻（入学定員20名、修業年限1年）を設置
平成15年	3月	飯田女子短期大学専攻科地域看護学専攻及び助産学専攻が独立行政法人大学評価・学位授与機構の専攻科として認定を受けた
平成15年	4月	地域の多様な学習ニーズに対応するため、飯田女子短期大学に生涯学習センターを設置
平成15年	10月	慈光幼稚園創立90周年記念式典を挙行
平成16年	3月	飯田女子短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養教諭養成課程として認定を受けた
平成17年	4月	飯田女子短期大学家政学科家政専攻生活デザインコースを生活造形コースに名称変更
平成18年	3月	伊那西高等学校は校舎の老朽化および耐震への対応を踏まえて校舎改築事業を開始（1、2、3号館を取壊し回廊式新校舎を建築する2年事業計画）
平成19年	3月	飯田女子短期大学は、平成18年度財団法人短期大学基準協会による第三者評価を受け、長野県の私立短期大学として初めて「適格」認定を受けた
平成20年	2月	飯田女子短期大学に専攻科養護教育専攻（2年課程）が、養護教諭1種免許状取得専攻科として文部科学省、独立行政法人大学評価・学位授与機構より設立の認可を受けた
平成20年	3月	伊那西高等学校校舎改築事業が完了し回廊式新校舎が竣工
平成20年	4月	慈光幼稚園が認定こども園へ転換し、児童福祉施設「慈光めぐみ保育園」を併設して認定こども園慈光幼稚園となった
		飯田女子短期大学に専攻科養護教育専攻（2年課程、養護教諭1種免許状取得、独立行政法人大学評価・学位授与機構認定専攻科）を開設
平成20年	10月	飯田女子高等学校創立50周年記念式典を挙行
平成21年	3月	飯田女子短期大学に幼稚園教諭1種免許状の取得できる専攻科幼児教育専攻を開設（2年課程、独立行政法人大学評価・学位授与機構認定専攻科）
		伊那西高等学校「新講堂」が竣工
平成21年	4月	飯田女子短期大学家政学科の入学定員を60名から40名に、幼児教育学科の入学定員を100名から80名へ変更
		認定こども園慈光幼稚園は園舎建設後30年が経過し、耐力度検査の結果、園舎建替工事を開始。現地での建替のため、工事期間中の21年度は、飯田女子短期大学敷地内の地域響流館を借りて1年間幼児教育・保育を行った
平成22年	3月	認定こども園慈光幼稚園の新園舎が竣工
平成22年	7月	飯田女子短期大学のキャンパス内地域響流館に、飯田市子育て支援拠点事業の『わいわいひろば』を開設。
平成25年	4月	飯田女子短期大学幼児教育学科の学科内コース制（幼児養育コース・福祉心理コース）を廃止
平成25年	8月	飯田女子高等学校は耐震審査の結果を受け、現地での校舎建替を開始（工事期間中は旧長野県飯田工業高等学校校舎を仮校舎として運営）
平成25年	11月	慈光幼稚園創立100周年記念式典を挙行
平成26年	3月	飯田女子短期大学は第2クールの一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受け、「適格」の認定を受けた
平成26年	11月	伊那西高等学校30周年記念式典を挙行
平成27年	1月	飯田女子高等学校新校舎が竣工

平成27年 3月	飯田女子短期大学の本館棟耐震化事業が2年計画で完了
平成27年 4月	新認定こども園法施行に伴い、認定こども園慈光幼稚園が幼保連携型認定こども園慈光幼稚園に移行
平成29年 4月	飯田女子高等学校に通信制普通科開設（収容定員240名）狭域性単位制
平成29年 4月	飯田女子短期大学介護福祉士実務者学校介護福祉士実務者研修（通信課程）開設
平成31年 4月	飯田女子短期大学専攻科幼児教育専攻を廃止
令和 2年 4月	飯田女子短期大学幼児教育学科の入学定員を80名から60名に変更
令和 4年 4月	飯田女子短期大学家政学科生活福祉専攻の名称を介護福祉専攻に変更
令和 5年 4月	飯田女子短期大学を飯田短期大学に家政学科を生活科学学科に名称変更

4. 設置する学校・学部・学科等

- (1) 飯田短期大学 生活科学学科 幼児教育学科 看護学科 専攻科
- (2) 飯田女子高等学校 全日制普通科 通信制普通科
- (3) 伊那西高等学校 全日制普通科
- (4) 幼保連携型認定こども園慈光幼稚園

5. 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和5年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員※	現員数
飯田短期大学	生活科学学科	130	85	260	179
	幼児教育学科	60	41	120	82
	看護学科	60	56	180	137
	本科計	250	182	560	398
	専攻科	30	27	40	30
	総計	280	209	600	428
飯田女子高等学校	全日制	215	215	645	554
	通信制			240	88
伊那西高等学校	全日制	175	107	525	366

※高校（全日制）は、1年～3年までの入学定員の総数

幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園	利用人数（定員）						計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
1号定員（60）				18(20)	15(20)	12(20)	45
2号定員（80）				22(25)	24(25)	29(30)	75
3号定員（40）	3(4)	8(16)	27(20)				38
総定員（180）	3(4)	8(16)	27(20)	40(45)	39(45)	41(50)	158

6. 定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
飯田短期大学		80.8%	79.7%	79.5%	74.2%	71.3%
飯田女子高等学校	全日制	84.1%	81.6%	81.8%	81.2%	85.9%
	通信制	25.0%	24.2%	25.0%	31.3%	36.7%
伊那西高等学校	全日制	80.6%	76.8%	79.6%	77.1%	69.7%
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園		107.8%	111.7%	106.1%	96.1%	87.8%

7. 役員の概要

役職名	定員数	現員数
理事	6～10	8
監事	2	2
評議員	18～25	18

(1) 理事・監事一覧

役職名	氏名	就任年月日	役職
理事長	高松彰充	H25. 4. 1 (H11. 4. 1)	理事長、学長、教授
常任理事	有馬 乃	H25. 4. 1	飯田女子高等学校長
常任理事	出野憲司	H25. 4. 1	伊那西高等学校長
常任理事	武分祥子	R2. 4. 1	飯田短期大学副学長・教授
常任理事	高松里子	R5. 4. 1	認定こども園慈光幼稚園園長
常任理事	木下幸彦	H28. 6. 1	法人本部事務局長
理事／非常勤	外松 豊	H12. 6. 1	会社役員
理事／非常勤	外松秀康	H30. 6. 1	会社役員
監事／非常勤	原 茂	H30. 6. 1	会社役員
監事／非常勤	尾太慎二	R1. 6. 1	会社役員

(2) 評議員一覧

役職名	氏名	役職名	氏名
評議員 (学内)	高松彰充	評議員 (学外)	木下隆由
評議員 (学内)	有馬 乃	評議員 (学外)	平野瑛児
評議員 (学内)	出野憲司	評議員 (学外)	伊坪 眞
評議員 (学内)	武分祥子	評議員 (学外)	吉澤文男
評議員 (学内)	高松里子	評議員 (学外)	小島嘉治
評議員 (学内)	木下幸彦	評議員 (学外)	長谷川敬子
評議員 (学外)	外松 豊	評議員 (学外)	双山しげ子
評議員 (学外)	高松和子	評議員 (学外)	北沢光勇
評議員 (学外)	外松秀康	評議員 (学外)	矢澤清彰

8. 教職員の概要

	常勤教員	非常勤教員	常勤職員	非常勤職員	合計
法人本部			1		1
飯田女子短期大学	57	73	15	20	165
飯田女子高等学校	42	14	5	3	64
伊那西高等学校	35	9	3	2	49
認定こども園慈光幼稚園	18	21	1	7	47
計	152	117	25	32	326

常勤教員には学長・校長・園長を含む

Ⅱ 事業の概要

【飯田女子短期大学】

1. 教育理念・目的・目標等

(1) 教育理念

本学は「うつくしく生きる」という建学の精神に則り、それを具現化するための方向性として以下の3つを示します

- ①私たちは、それぞれが異なる存在であり、異なる存在であることが尊いことを認識し、自分と違った生き方を尊重できる私を目指します。
- ②私たちが知る世界はごく一部である。真実の世界はそのもっと奥深いところにあることを自覚し、常に学び続けます。
- ③私たちは、周りの願いに気づき応えていくことで、自分の人生の意義を見出していきます。

(2) 教育目的

豊かな人間性と創造力を持ち、高い識見と実践的な態度を備えた、社会に貢献できる人を養成します。

(3) 教育目標

- ①建学の精神を基にし、豊かな人間性を育成します。
- ②専門的な知識・技術・態度を備えた人材を育成します。
- ③社会の発展・向上に寄与できる課題解決能力を育成します。

2. 教育方針

本学では、以下のような学生を育成します。

(1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー（DP））

- ①豊かな人間性を備え、高い倫理観と慈しみの心を持って他者と関わることができる学生。
- ②専門的な知識・技術・態度を習得し、生涯学び続けることができる学生。
- ③社会の課題に真摯に向き合い、発展・向上に寄与できる学生
更に、各学科専攻の方針に基づき、広い知識と専門性を有して社会に貢献できる人を養成し、学位授与を行います。

(2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））

卒業認定・学位授与の方針で明記している能力を養うため、基礎教養科目・専門教育科目を系統的に編成します。

- ①教育課程を通じ、豊かな人間性、高い倫理観、他者とのコミュニケーション能力を養うことができるように編成します。
- ②基礎教養科目は「うつくしく生きる」と「キャリアデザイン」を必修とし、『人間の理解』『人間と社会』『自然と生活』『外国語』『自己表現』『キャリア』の6分野から科目を選択して、建学の精神と社会人として必要とされる学びが達成されるように編成します。
- ③専門教育科目は、学科専攻の卒業認定・学位授与の方針を目指し、専門性を備え社会に貢献できる能力を養うために必要な科目を開設し、各種免許・資格を取得できるように編成します。

(3) 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー（AP））

- ①短期大学における学修に必要な基礎学力を有している人
- ②他者を大切にし、自分の人間性や倫理観について考えられる人
- ③専門的な知識・技術・態度を積極的に学ぶ姿勢のある人
- ④社会に対して関心を持ち、主体的に学ぶ意欲がある人

3. 建学の精神の共有

(1) 学生に対する教育の充実

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、国内状況を鑑みながら教育活動を工

夫した。学生便覧への掲載、学長の講義「美しく生きる」の全学生の受講は対面で実現した。しかし、宗教行事（アセンブリーアワー、釈尊降誕会、報恩講など）については引き続き縮小し、アセンブリーアワーは年間を通じて学科専攻ごとで実施した。そして釈尊降誕会は実施できたが、講堂への入場は1学年のみとし、教室でのオンライン参加も併用するハイブリットでの開催とした。報恩講は外部講師の講演を依頼し、釈尊降誕会と同様にハイブリットで実施した。そして、看護学科1年生の発願式は保護者（家族）1人のみ出席を可能とし、来賓3人（飯田市長、飯田医師会、実習施設代表）にも直接会場で祝辞をいただいた。ただし、東本願寺研修については、引き続き感染拡大地域への移動を伴うため参加を見送った。

（2）教職員への研修等の充実

新任教職員の理解を深めるため、4月の就任研修の中で建学の精神の説明を行った。コロナ禍であっても可能な限り、学生と同じく全職員が宗教行事（アセンブリーアワー、釈尊降誕会、報恩講など）に参加し、建学の精神の浸透を図った。

建学の精神「うつくしく生きる」については、年度初めの初会議や拡大教授会の場で、学長より話をすることで教職員と共有し、意識する機会となった。

4. 入学者の確保

本学の教育の維持・発展を目指し、学生の安定的な確保のための各種取り組みの強化・創出、男女共学化に係る募集活動を行った。次年度入学者数は、本科176名、専攻科27名、計203名となり今年度入学者数と比べ14名増となった。本科入学生においては生活科学専攻4名減、介護福祉専攻4名増、食物栄養専攻6名減、幼児教育学科5名減、看護学科21名増という数字であった。

共学化による男子学生の入学者数は、介護福祉専攻6名、食物栄養専攻5名、幼児教育学科3名、看護学科10名の計24名であった。

飯田下伊那地域からの入学者は4名減であったが、南信地域の入学者は7名増であった。

（1）学生募集活動について

出願契機に影響を与えるオープンキャンパスを6月、7月、8月、9月に来校型で実施した。参加のべ人数527名。受験対象者実人数は280名であった。オープンキャンパス経由の入学者数は、148名であり、全入学者の約84.1%がオープンキャンパス経由の入学者であった。次年度以降についても、本学の魅力を伝えるために内容を見直し、学生スタッフの対応力強化を行うとともに、出願者、入学者の増加を目指してステークホルダーに対して効果的なオープンキャンパスを実施していきたい。

次年度については新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなることが予想され、直接接触の機会が増えることとなる。世の中の動向に合わせ、より効果的な学生募集活動を行いたい。

社会人向けの長期高度人材育成コース（飯田技術専門校との連携）での入学者は、介護福祉専攻1名、幼児教育学科2名の計3名であり、前年度よりも6名減少した。

（2）情報発信について

教育研究活動、入試・学生募集に係る情報を発信するために公式ホームページ、Twitter、Instagramの更新を行った。特色ある取り組みやイベント、教育研究活動についてはプレスリリースを行い、新聞社、TV局等の各メディアの取材を受けた。特に若年層の利用者が多いInstagramについては、担当職員が頻繁に更新を行う体制とした。次年度は校名変更、男女共学化となるため、ホームページのリニューアルを行い、ブランドイメージの確立を図るとともに、Web・SNSを用いた積極的な広報活動を継続して行っていきたい。

5. 学生支援

学生支援充実のために、アドバイザー（クラス担任）と学生課が連携して、日々の生活や授業に対する支援、キャリア支援、進路支援等を行った。

就職状況は好調に推移し、最終就職率（就職希望者に占める就職決定者の割合）は99.5%で例年通り高

い水準を維持した。本学に直接寄せられた求人件数は 834 件あり、学生課内のファイルや掲示のほかホームページへ求人情報公開をして学生のタイムリーな就職活動をフォローした。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、公務員対策 WEB 講座、教員採用試験ガイダンス、ハローワークと連携した就職相談（9 回）等を実施した。就職ガイダンス・就職活動の進め方、卒業生対象キャリアサポートセミナーは、各学科で実施した。また、個別の就職面接指導、個別相談・履歴書添削等を実施するなど、感染症の状況を考慮しながら、きめ細かな就職相談・支援活動を展開した。

奨学金の対応は学生課が窓口となって申請、手続き等を行った。

<主な奨学金>

- ・日本学生支援機構奨学生(全体) 226名 (給付61名 第1種86名 第2種79名)
- ・長野県介護修学資金 (社会福祉事業団) 16名
- ・長野県保育士修学資金 (社会福祉事業団) 9名
- ・長野県看護職員修学資金 5名
- ・ソロプチミスト奨学生 1名
- ・生命保険協会奨学生 1名
- ・東本願寺奨学金 (給付) 6名
- ・新型コロナウイルス感染症対策助成金
188名 @2,000円分クオカード配布
- ・物価高に対する経済対策支援金事業 給付 (1月)
239名 @2,000円分クオカード・@2,000円図書カード配布

6. 地域貢献・地域連携活動の推進

令和 4 年度公開講座は 31 講座を企画し、28 講座実施、3 講座を中止した。令和 3 年に比較すると新型コロナウイルス感染症による中止の講座数は少なくなった。新しい生活様式も定着してきており、開催した講座は、感染症対策、人数制限を行った。

宗教講座は前年に引き続き飯田女子高等学校、宗先生を講師に開講し、「だめなひとは一人もいない」および「罪悪深重煩惱熾盛の衆生」をテーマに行った。前学長故高松信英先生がよく言われた「だめなひとは一人もいない」で表現された仏さまの教えを学び直す講座に 20 名の参加があった。また、菱田准教授を中心に外部講師も依頼し開催した「飯田下伊那における障害児・者と家族のあゆみとこれから～ひまわり学園の設立から学ぶべきことは何か～」の講座は、参加者 43 名（内 25 名がオンライン）で行われた。障害児の家族の参加もあり、この講座を機にネットワークの構築へと繋がったようである。

また、介護予防運動指導員養成講座は、一般 3 名、学生 1 名が受講した。本講座は、コロナ禍 2 年開講できなかったが、昨年度より再開することができた。e-ラーニングが取り入れられ、受講生は 1 カ月の期間で各自理論を学び、対面での実習が 2 日間行われた後、修了試験を受けた。

令和 3 年に中止した『織』『染』講座においては、令和 4 年度は開講することができ、心待ちにしていた受講希望者への責任を果たすことができた。

その他、介護福祉専攻教員と連携をとりながら介護福祉士実務者研修（通信制）、喀痰吸引等研修を実施し事務作業を行っている。これらの講座は、大きな収益事業となっている。

また、本学教員の専門分野である栄養・介護・保育・看護などに関連した出前講座においては、飯田下伊那の地域を中心に保育園や小・中・高校、地域の勉強会など 8 講座への申し込みが計 23 あり、多くの生徒や地域の住民等が受講した。

加えて、飯田市養育支援家庭訪問登録員養成講座の講師を担当し、本学での開催をした。子どもゆめ基金助成活動事業の計画・実施への協力は、新型コロナウイルス感染症の影響により、4 講座計画し、2 講座実施、2 講座中止した。

飯田市地域子育て支援拠点事業つどいの広場の 1 施設である本学設置「わいわいひろば」の管理を行っている。スタッフは、入園前の乳幼児とその保護者が、安心して気軽に来所できるよう心がけている。令

和 4 年度も季節に応じた行事や保護者に向けた講習会などを企画運営した。新型コロナウイルス感染症により利用者の制限、休館も余儀なくされた。そのため、Instagram での情報発信、インスタライブによる講習会、親子あそび、育児相談を希望する保護者には LINE を活用するなどして相談に応じるなどの活動を行った。

本学は、平成 27 年度より社会人の職業能力開発の専門実践教育給付金制度の教育訓練施設となり、学生への周知と受給のための支援を行っている。令和 4 年度は、専攻科地域看護専攻の学生 1 名が教育訓練給付金を受給することができた。

7. SD・FD活動

教職員の資質向上及び教育の質の向上を目指し、SD・FD活動に取り組んだ。

SD活動はSD委員会が主体となり、教職員の資質向上に関する事項、事務局の業務や学校運営の改善に関する諸活動を行っている。

主な活動内容

(1) キャンパスライフに対するアンケート

「キャンパスライフに対するアンケート」では、サポート体制、満足度、要望の把握、学習環境の整備・改善を行っている。令和 4 年度についても、オクレンジャーを使用してのオンライン上でアンケートを行った。

(2) SD研修会

教職員が大学等の運営に必要な知識・技術を身に付け、能力・資質向上させるためのSD研修会を計画実施した。令和 4 年度のSD研修は、教育法規研修会～奥井の教育法規～(講師：奥井現理教授)、「学生の手本となる社会人としての働き方(講師：井坪まゆ美氏)」、「ハラスメント研修会～相互尊重のキャンパス作り～(講師：井坪まゆ美氏)」を実施した。

FD活動は、FD委員会を中心に各学科専攻と連携し、地域に必要な人材の育成とそれに必要な教育の質保証に取り組んでいる。

主な活動内容

(1) 新任教職員研修会

新任教職員 2 名に対し、FD 活動及び本学の理解を目的に実施した。

(2) FD研修会

研究授業サークルの共催により授業改良のため「効果的な発問のあり方」をテーマに研修会を実施、授業展開における効果的な発問についての理解を得た。※teams による遠隔実施

(3) 授業改善アンケート

全授業科目(非常勤教員の授業科目を含む)に対し、授業改善アンケートを実施した。

その結果を PDCA サイクル回転に繋げた。

①担当教員：結果返却により、担当科目の授業改善及び学修成果評価の実施

※各教員 1 科目以上について授業改善報告書を提出

②学科長、専攻・基礎教養主任：結果確認・評価・指導による学科専攻全体の授業改善の実施

(4) 学内公開授業とその評価

授業の質の向上を目的に他教員の授業を参観しその評価を実施した。

(5) 学修成果の評価

教員がそれぞれ担当する全て科目についての自己評価を実施し、学科長、専攻・基礎教養主任確認後に、教務委員会へ提出した。

8. 各学科・専攻、各部署の取組

<家政学科家政専攻>

種々の教育場面で新型コロナウイルス感染症予防のための対策、調整をはかり教育活動を行った

- ・学生数 1年：32名 2年：42名
- ・卒業生 41名

1. 学びの分野ごとの主な活動内容

(1) デザイン：学修成果の学内外へ発信

- ①卒業作品展（学内）の様子を飯田ケーブルニュースで地域に発信
- ②学園祭、卒業作品展における作品展示
- ③（有）スミツネとの共同制作・飯田お練り祭りでの作品販売
- ④ひさかた和紙との共同制作・染め技法によるランチョンマットデザイン

地域発信：暮らしの学習交流会(10月8日(土)：上郷公民館)

キャリア教育フォーラム(2月11日(土)：飯田文化会館)

地域交流：小学生と学生のひさかた和紙の染め技法交流（3月2日(木)：下久堅小学校)

資格取得：色彩検定3級：4名・色彩検定2級：2名

(2) 養護教諭：細やかな就職支援

- ①教員採用試験対策（面接）の実施※既卒者も含む
- ②就職相談を随時実施※教育機関及び教育委員会との連絡調整
- ③長野県教育委員会説明会の開催

・養護教諭2種教員免許取得者：16名

・就職状況：養護教諭：1名・養護助教諭等：3名・進学：6名※本学専攻科

(3) 医療事務：資格試験合格のための対策強化

資格試験に準じた試験対策の実施

- ・メディカルクラーク(医科)合格：28名
- ・メディカルクラーク(歯科)合格：7名
- ・ドクターズクラーク合格：14名
- ・ホスピタルコンシェルジュ合格：5名
- ・調剤報酬請求事務技能認定：18名
- ・医療秘書実務士認定：4名

2. 専攻全体としての主な活動内容

- ①学修成果の可視化を目的とした『学習成果ノート*』の配布 *学習成果ノートの学習は「習」と表記している
- ②専攻のカリキュラムを図式化したカリキュラムツリーの活用
- ③学修成果の学生の自己評価と教員の学生指導を目的としたルーブリックの実施

<家政学科介護福祉専攻>

1. 専攻の重点項目

(1) 在学生への満足度を高め休退学0を目指す

進路変更等により2名退学した。

- ①個別ケアが必要な学生に対して、アドバイザーが指導をしてきた。国家試験に向けて、専攻全体でフォローし希望者は全員取得することができた。
- ②志の高い学生へは、より広く福祉を学ぶ機会を保障するよう「社会貢献活動」を推奨し、1年生の6割は「社会貢献活動」に参加した。個別性に応じた目標設定を行ってきた。
- ③わかりやすい授業・おもしろい授業の追求については、授業研究サークルに専攻で参加するなど、一方向ではなく、発問重視の授業の展開をしていくように取り組んできた。今後もわかりやすい

授業を進めていけるよう、次年度の課題とする。

(2) 定員充足を目指す

定員充足未達成（男子6名 女子17名）

①ダブルライセンスの獲得

- ・介護福祉士+社会福祉士のダブルライセンスを全面的にアピールしていく。
- ・介護支援専門員（ケアマネジャー）取得を目指すルートを確立する。5年サポート体制

②災害支援を授業に取り入れ災害に強い介護福祉士の養成については、「介護の基本B」に取り入れ、継続的に専攻独自の避難訓練を行ってきた。

③共学に向けて、授業の内容の変更点を計画的に進め、車いすバスケットチームとの交流を共同、人間の多様性の理解のために犬との授業を増やし、地域の車いすバスケットボールチームと交流し、障害を理解し人間の多様性の理解につながった。また、犬の授業を取り入れた経過については、学内集談会で経過をまとめた。「犬のふれあい訪問」を養護老人ホームで行い、介護の現場での犬との暮らしについて学ぶ機会をつくった。

生活支援技術等の授業における配慮・工夫等を具体的に検討する。

④募集強化のため、『南信州・福祉の魅力発信プロジェクト』を高校に配布した。

2. 本科以外の事業

(1) 介護福祉士実務者研修—通信課程 40名 4月～10月 受講生 32名

(2) 介護予防運動指導員養成講座—一般・学生 2～3月 4名受講

(3) 公開講座 「持ち上げない介護」13名受講

(4) 県の補助金関係 2,7000円

短大×介護事業所合同オープンキャンパスの実施と入学促進に資する啓発ツール（付箋）の作成を行い配布した。共学化に伴い今後も地域の事業所との連携が必要である。

3. 令和4年度の反省

「一人ひとりの学生を大切にする」という学生本位の立場は、昨年度と同様に専攻として実践できたといえる。コロナ禍で学外実習が思うように実施できず、学びの進度に違いが生じてしまった。支援の必要な学生も増加しており、今後、個別支援をどう配慮しながら行っていくのかを検討していきたい。

<家政学科食物栄養専攻>

1. 専攻の主な活動内容

(1) 調理実習や学外実習を通して、実践的な教育を実施した。

- ①学生は基本的な調理技術を身につけた上で、学外の施設での給食管理業務を体験することができた。
- ②感染予防を徹底しながら、昨年度までできなかった学外実習を実施した。

(2) 教育の一環として、地域や企業と連携した食品開発を行った。（食品開発実習）

- ①製パン、製菓技術の基本をプロから学んだ。
- ②商品のマーケティング戦略について、レストランの経営者から学んだ。
- ④食品開発実習を通して商品化、メニュー化を行った。

（パン：「源助かぶ菜のパン」「ベーコンフラワー」「くまのはちみつ焼き芋パン」「クリーチーかきパン」「おいもパン」「チョコとクリームチーズのくるっとパン」「バジルとチーズのぐるぐるパン」「バナナクリームチーズ入りレーズンパン」）

（焼き菓子：「信州ガレットブルトンヌ」）

（冷凍食品：「不足しがちな栄養素の1/3がとれる ハヤシライス」「7大アレルギー不使用 具だくさんさっぱり トマトソース」「成長期に食べてほしい 不足しがちなカルシウムがとれる 鮭とほうれん草のきのこクリームパスタソース」「冷感性・野菜不足のあなたへ 南信州からの贈り物 ヌッケジャンクッパ」「色鮮やかほうれん草ソース 1日の1/3の野菜が摂れる！いっぱい食べて元気モリモリ！ スタミナ肉みそ」「鉄分補給 クラムチャウダー」「筋肉

増強！ 中華あんかけ」

⑤開発した商品をWebサイトでアピールした。

「冷凍食品」は連携協定を結んでいる丸中中根園のWebサイトでも販売した。

(3) スポーツ食育への取り組み

①スポーツ栄養研究会の活動

・高校運動部（野球・ラグビー）選手への栄養サポート

②出前講座（スポーツ少年団、高校）

・体組成計、骨密度計の活用と食事指導

(4) 在学生、卒業生への支援

① 研究への取り組み→ 市田柿の利用の地域課題解決のための研究

② 学生・卒業生の希望に合わせた就職支援→ 企業研究、栄養士会との連携、模擬面接

2. 本科以外の事業

(1) 管理栄養士国家試験対策講座

(2) 飯田メディカルバイオクラスター（ルミナコイド研究会）・伊那谷アグリノベーション推進機構・長野県栄養士会ほか

(3) 防災講座（パッキング）、産業振興（地域食材の啓発）、食の科学体験教室 ※補助金事業

<幼児教育学科>

学科の重点項目：共学化に向け、教育内容の充実と学生募集の2つの視点からの取り組みを行う。

1. 教育内容の充実

(1) 学習の課程、系統を学生と共有し、教育力と実践力を高めよう

①カリキュラム系統図（学びのマップ）の作成

1年前期科キャリアデザインにおいて、昨年度作成した学びマップを用い、2年間の学びのイメージを示した。系統的な関連性をより捉えやすいものへと改訂を進める必要がある。

②学内の学びと学外実習をつなぐ段階的な学び

実習指導の授業において、学内の学びと学外実習をつなぐことができるような授業を計画し、現役保育士（特別講師）による講義を2回実施した。実践例を交えての講義は、子どもの見取りから保育計画を立てる、保育の流れの理解を促すものになった。また、講師の先生には実習への不安や疑問にも丁寧に答えていただき、学生達たちの不安を軽減することができた。

③学修成果の評価方法の見直しと検討

これまで実施してきた「履修カルテ」の記入による学修成果の自己評価（3段階）を、グラフ化し“学修成果の見える化”を試みた。系統的な学びのマップの改訂と合わせて、学修成果をとらえやすくする方法について、さらに検討していく。学修成果の発表として、卒業研究発表会において、各ゼミナールの活動報告会を合わせて行った。学外での活動体験の報告があり、学びのフィールドを広げた実践の様子を知る機会となった。

・令和4年度 学外実習実施状況

免許・資格	期間	実施時期等
幼稚園教諭（二種）	1年次7日間	通年 慈光幼稚園
	2年次10日間	夏季休業中 出身地域の幼稚園等
保育士	1年次10日間（施設）	夏季休業中 一部延期 一部期間の短縮および学内演習の実施
	1年次10日間（保育所）	学年末休業中 出身地域の保育所等
	2年次10日間（保育所）	後期 出身地域の保育所等 一部期間の短縮および学内「わいわいひろば」での演習

(2) Expression

昨年度にひきつづき、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、少人数のグループ編成による人形劇の創作と発表を行った。本学講堂での発表に加え、姉妹園等での出前公演を行うことができ、実際の保育現場での上演経験が、子どもの前で表現することへの自信につながったことが成果である。保育者としての表現力の向上をめざし、今後も継続していきたい。また、1年生と2年生の連携を密にし、2年間の学びの集大成として位置づけられるようにしていきたい。

実践の記録として、脚本集の作成を計画し、進めている。

2. 学生募集活動

オープンキャンパスでは、毎回異なる内容の体験授業を通して教員の専門性を紹介し、短期大学の専門的な学びの一端に触れてもらうことができた。また現役保育士のグループ（男性）をお招きし、コマ回しの体験、絵本の読み聞かせ等を行っていただいた。保育士を身近に感じてもらう機会ともなり、参加者には大変好評であった。今後も保育職の魅力発信の場として位置づけていきたい。

ガイダンスでは、「わいわいひろば」や自然保育を特色としている園への保育参加の様子などを紹介し、地域とのつながりや学外に広がる学びのフィールドについてアピールした。ガイダンスについては、対面、オンラインの選択が可能となっている。これらの機会を活かし、オープンキャンパスへの参加へとつなげたい。

3. 本科以外の事業

飯田市保育補助員支援員研修（飯田市より依頼）6月～11月

新型コロナ感染状況の拡大により、一部の研修が中止となった。

<看護学科>

学科の重点項目の1つ目である「学生の満足度を高め、留年による休学、その後の退学という経過をたどる学生を減らす」については、今年度も数値として成果は得られなかったが、学科全体で努力して取り組んでいる。クラスアドバイザー及び担当アドバイザー、ゼミ教員等によるきめ細やかな関わりは継続しており、多面的な支援を行っている。具体的には、成績不振の学生に対して面談し学習の様子を聞いて助言したり、学習に集中できない学生にはその理由を聞き対策を一緒に考えたりした。また、看護学科での継続が困難な学生については、その背景を知り、必要があれば継続のために休学をして心身ともに整えたり、進路変更のため転科の道筋を丁寧に支援したりした。退学に至る場合も、すぐに結論を出すのではなく、その学生にとってどのような方向性で進んでいくのが一番良いかを多面的な面でも一緒に考え結論を出すよう関わった。成績良好の学生には、その学生の力量に合わせ、個別的に教員がかかわっている。全学生の学習効果が向上するように、日常の関わりを大切にすることは継続して取り組んでいる。

2つ目である「定員充足をめざす」については、学生募集活動等において努力し、入学予定者は増加したが、定員を満たすまでには至らなかった。「専攻科特別進学枠入試(以下特進枠とする)」も含め、入試方法の見直しを行い実施につなげたが、今年度の特進枠入試でも地域看護学専攻への応募者が少なかった。地元病院との連携・協力もできているが、なお一層の関係構築を図っていく必要がある。地域の人材獲得に向けて、公開講座やガイダンス・授業を精力的に実施してきた。特に、近隣の中学校から性教育の依頼が多くあり、その際に教員や対象の生徒に対して看護や本学に興味を持てるよう情報提供もしている。今後も要望に応えるのみでなく、こちらからのアピールも積極的に行っていく必要がある。

その他、令和4年度から新カリキュラムがスタートし、実施した部分については評価し今後につなげられるよう検討している。来年度も同様に実施・評価しながらより良いものとなるようにしていく必要がある。カリキュラムツリーはほぼ完成できているが、ルーブリック評価については、さらに活用を広げていく必要がある。また、今年度は、看護学科 DP 到達のための「10の学習成果」というルーブリック評価表を作成し、その結果をもとに学生との面談で一緒に振り返りを行った。さらに、令和5年度か

ら共学となるため、その準備も進めている。

<図書館>

1. 図書・学術委員会

- (1) 学術研究助成：0件
- (2) 紀要39集(2022)発行部数430冊。リポジトリに登録。
- (3) 学内研究集談会を会場とteams会議でハイブリッド開催。
Part1 令和5年2月14日 参加人数68人/Part2 令和5年1月19日～2月14日
プレス：南信州新聞社

2. 図書館

- (1) 図書・雑誌・電子ジャーナル・視聴覚資料
 - ・新規購入雑誌『MEN'S NON-NO』『pen』『アニメージュ』『dancyu』『長野Komachi』
停止『Ray』『gap PRESS』『月刊美術』 ※廃(休)刊は除く
 - ・2022年度図書(資産)除籍 図書820冊(2022.9)
 - ・保存年限が切れた雑誌の除籍、放出(2023.2)
- (2) 館内展示、利用教育、広報(抜粋)
 - ・特集コーナーをtwitter、instagramで発信
 - ・新入生対象館内ガイダンス全クラス実施(2022.4-5)
 - ・幼児教育学科 壁面制作(2022.5-)
 - ・図書館で千本つり大会(2022.6.13-) 雑誌付録プレゼント企画(参加者：学生69名、教職員1名)
 - ・試験前開館(2022.7.30-31)
 - ・元気づくり支援金活用事業冊子展示/配布 わが家の避難計画(2022.8-)
 - ・図書館でガチャガチャ(2022.12-2023.1) 雑誌付録プレゼント企画
 - ・食物栄養専攻 千先生の授業で文献検索ガイダンス(2022.9)
 - ・看護学科2年生 授業で文献検索ガイダンス(2022.11)
 - ・土曜希望開館(2022.11-) ※希望者が定員に満たず未開館
 - ・試験前開館(2023.1.21,29)
 - ・食物栄養専攻地域企業コラボ食品 案内の展示 パン/冷凍食品(2023.2-)
- (3) 隣は何を読む人ぞう 47号～50号発行、ヨムゾー目隠し本の開催
- (4) COVID-19対策
 - ・パソコン、コピー機、自動貸出機などアルコール消毒
 - ・返却された本のアルコール消毒および3日間使用停止期間の設置
 - ・新型コロナウイルス感染症対応(2022.4-6.3) 入館記録
 - ・新型コロナウイルス感染症対応(2022.8.18-) 学生は事前連絡による利用、入館記録
- (5) その他
 - ・図書館研究会夏期研修会「レファレンスについて」(2022.8.29)
 - ・健康センターミニ図書館 半期ごと交換
 - ・第72回長野県図書館大会(2022.10 飯田開催) /実行委員会 参加

<健康センター>

1. 学生の定期健康診断の実施

- ・4月5日(火)実施
健康センター委員及び各学科・事務局よりスタッフの協力を得て実施。運営説明会を行い、会場準備、当日の運営と片付け等、おおむねスムーズに行うことができた。昨年同様に新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じて実施した。

2. 教職員の定期健康診断および、特定健康診査および、ストレスチェックの実施
 - ・健康診断 11月11日（金）実施 感染症予防対策として、グループ分けをして実施
 - ・ストレスチェック 健康診断時までに回収する 中部公衆医学研究所にて分析
 - ・健康診断未受診者及び健康診断後の受診勧奨（声かけやメール送信）等の実施、相談窓口のご案内の配布等
3. 学生および教職員の応急手当、健康相談等
 - ・外科系：61件 内科系：101件 相談：46件 その他：199件
4. 緊急時搬送
 - ・病院搬送・救急搬送の実施
5. 感染症対策に関すること
 - ①感染症報告
 - ・新型コロナウイルス感染症 149名
 - ・インフルエンザ 2名
 - ・感染性胃腸炎 1名
 - ②感染症予防活動
 - ・注意喚起（掲示：感染レベル状況 4月～2月・熱中症・抗原検査に関する情報等、呼びかけ：報恩講後）
 - ・健康チェックシートの作成・配付・回収依頼（毎月、長期休暇用等）
 - ・消毒用アルコールボトル、アルコール除菌シート等の設置、補充、行事日（入試・発願式・学園祭等）の貸出
 - ・健康センターだより発行 健康チェックシート裏面に掲載（新型コロナウイルス感染症に関する内容、熱中症 他）
 - ・長期休業明け体調確認の強化 オクレンジャーの活用（アンケート作成）、各学科へ体調確認体制の協力依頼 学生課・各学科担当者
 - ・飯田市提供抗原検査キット（簡易検査）の活用（学外実習関係・長期休業および待機期間明け体調確認時、体調不良者） 健康センター委員 他
5. 健康増進活動
 - (1) 学生・教職員対象 健康情報の発信（健康センターだより、掲示等）
感染症に関する情報、熱中症予防、目の健康について等
 - (2) 教職員対象 メンタルヘルス研修会開催、ヨガ開催
令和5年2月14日（火）14:00～15:30
テーマ：自分の身体を見直そう～手軽にできるセルフコンディショニング
講師：株式会社フクシ・エンタープライズ
高森町健康センターあさぎり センター長 渡邊 雄太 氏（健康運動指導士）
地域響流館1F アカシアホール 41名参加
 - (3) 学生メンタルヘルスカウンセリング
警戒レベルが高い時は、それぞれ別室にてZoomによるオンラインに切り替えて実施した。
メンタルヘルスカウンセリング 4月～2月 外部カウンセラー対応：12回 21件（14名）

【飯田女子高等学校】

<全日制課程>

1. 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を考慮した学校運営

【全国及び県立高校と合わせた対応】

令和2度3月より流行し始めた新型コロナウイルス感染症だったが、令和4年度においても感染の大きな波がくることがあった。本校においても4月（9日～17日）・6月（10日、13～14日）に学校閉鎖、5月に1クラス学級閉鎖（14日～17日）を行うこととなった。そのため、予定されていた行事等を延期・実施した。その後も基本的な感染症対策を実施しつつ、授業は基本対面授業とし、リスクの高い活動については、地域の感染レベルや校内の感染状況に応じて対策をとりながら実施した。行事は時間短縮等の工夫をした。学年毎による分散、リモートによる実施、集会は放送を用いるなど行った。クラブ活動等の課外活動においても、県立高校に準じ、時間短縮等の制限を設ける処置をとった。

【基本的感染症対策】

文部科学省および長野県の定めたガイドライン等を参考に、高松学園の基準に則り対処し、現在も以下の対策を継続している。

- (1)いわゆる3密を避ける方策を施した授業をはじめとした集会、行動様式の指導と徹底。
- (2)手洗い、消毒、会食時のあたらしいマナー（一方向を向いての食事、可能な限りの黙食等）、衛生面での対策（ゴミとゴミ箱の削減等）の指導と徹底。
- (3)生徒への感染拡大地域への不要不急の往来の自粛要請と、やむを得ず往来をした場合の健康観察期間（登校控え）の設定等の指導と徹底。
- (4)職員会議は月1～2回程度にし、職員のテレワークを推奨した。
- (5)公共交通機関（電車・バス）の利用をできるだけ控え、徒歩や保護者の乗用車での送迎を奨励し、乗降場所を近隣の公民館などへ依頼するなど特別な対応をして、登下校時の3密を回避する努力をした。

【対策を施す上で注意した点】

- (1)入学式や卒業式などの儀式的行事は、行政のガイドラインを考慮した上で、時短・縮小開催するなど、当地唯一の私学であっても他校への影響を考え、周辺の県立高校と歩調を合わせながら学校運営を進めた。
- (2)中止や延期になる行事は、できるだけその行事の本来の目的を達成できるよう、仮に中止になってもそれに代わる機会を提供したり、提出物の作成を求めたり、代替の指導を考え、工夫をした。
- (3)感染対策上、徹底の仕方を留意し、直ちに生徒に強制するものと、学年やクラスの実情に合った柔軟な対応がふさわしいものなどに分けて考えるなど、過度に画一的な指導にならないようにした。
- (4)行事の実施の可否や時期を再検討し、定期試験の時期を延期したり、夏期休暇や年末年始休暇、個人懇談等の日程も柔軟に変更したりと、感染リスクを低減し、その中でも効果的な教育活動ができるよう努力した。

2. 教育活動（教育方針・カリキュラムの特徴・変更点等）

[本校の教育方針]

本校は教育基本法並びに学校教育法に則り新しい時代に相応しい健全な家庭人有能な社会人として教養豊かな女性を育成することを目的とし特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。

学校目標に「和顔愛語 先意承問の精神」「B・A・S・E」（勉強・挨拶・掃除・笑顔を大切にする）を掲げるとともに、大切にしたい3つのことばとして「いのち・時間・ことば」（「いのち」＝かけがえのないいのちと、自分自身にかけられた願いを感じ取る。「時間」＝二度と戻らないこの時を大切にする。「ことば」＝時と場合に応じたことばの使い方をする。）を掲げた。これらの重点目標のもと、授業、行事、クラブ活動等様々な活動を通して教育方針の実現を目指した。

3. 学習指導

学年が上がるにつれ多くの生徒が前向きな姿勢で学習活動に打ち込み授業への取り組みや学習習慣が身についてきている。業者テストを取り入れ、1・2年生全員対象に、実力診断テストを4月と8月の2回実施した。より継続的な指導ができるようデータの活かし方を模索中である。下校時間から20時30分まで、希望者による自主学習「夜ガク」も定着し、総合コース・進学コース隔てなく参加生徒の学習時間の確保・学習意欲の継続につながり、学力定着に確実に結びついている。

教員の資質の向上を図るために研究授業を実施するとともに、さまざまな校外の研修会に参加し本校ならではの授業形態の構築に努めてきた。1, 2年生はiPadを利用し、教員も徐々に慣れてきた。ロイロノートをICT学習の中心に展開できるめどがたった。探究活動としては、総合コースでは1年次に福祉施設実習を取り入れ、家庭科を中心に3年間通した継続的な活動を実践している。進学コースEクラスでは、コロナ渦中活動が制限される中積極的に様々な活動に参加し視野を広げ、自らの探究活動の中間発表をするなど精力的に活動してきた。進学コースSクラスはエナジードを利用している。今後、他大学や企業など幅広い協力していただける関係先を探し教育課程の改善を進めていく。

4. 進路指導

年度当初から本校は新型コロナウイルス感染拡大による休校からスタートし、今年度も新型コロナの影響は受験生にとって大きなものとなった。また、大学入試改革の過渡期の混乱は、3学年の生徒・保護者に少なからずの不安を与えたものと想像する。しかし、一方では、このような混乱期においてもしっかりと自らの為すべきことを見つめ、淡々と努力を重ねる本校最高学年の真の底力を再確認する機会ともなった。ほとんどの生徒が希望通りの進路を実現することができたのは喜ばしい限りである。また、それを支える担任職員のサポートも充実していた。日々の細やかな進路面談や様々な個人相談は確実に行き届いていたように思われる。

進路結果の詳細は別紙の通りである。

＊進学・就職状況（本年度の様子・傾向・特記事項等）

卒業生の進路内訳は進学が全体の81%、就職17%であり、概ね本人が希望する進路を実現している。特に、国公立大学に9名、防衛大学校に1名の合格者を出せたことは教職員の努力だけでなく、生徒たちが最後まで諦めなかった結果である。今後も、基礎学力の底上げと同時に、キャリア教育を充実させ、自己の進路への意識を高め、新しい試験内容に対応した進路指導を心がけていくつもりである。

5. キャリア教育・探究活動

国際化、情報化の急速な進展により社会構造も急速にかつ大きく変革し、知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが学校現場では求められている。2020年度から始まった大学入試改革により、大学入試は学力の3要素を「多面的・総合的に評価する」入試へと変わりつつある。これは、知識・技能の確実な習得はもちろん、それをもとにした思考力・判断力・表現力の向上、そして、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成を目的としている。本校では、学校生活の全てが生徒たちにとってのキャリア形成の場であると考えているが、特にキャリアガイダンスや職場体験等を通してさまざまな職業を知り、仕事に対する意識を高めるとともに、自治体や企業の協力のもと生徒たちに様々な人との出会いや活動の機会を用意している。生徒たちは様々な人との出会いを通して視野を広げ、他者と協働することで人々の思いを知り、地域の魅力や課題に気づく。さらに、自分に出来ることは何かを考えることを通して地域や自分自身についての理解を深め、将来どのように社会に関わっていくかを考えて自らの進路を選択していく。現在、飯田市をはじめ飯田下伊那地域では、高校生と地域・大学・企業等をつなぐ事業に注力している。このような事業との連携は、社会で必要とされる力を生徒たちが実際に発揮するチャンスである。本校のキャリア教育では、生徒たちが活動を通じて得た知識や人々との繋がりを活かして自らの将来を自らの手で切り拓いていけるように、また、積み重ねてきた活動実績を用いて自信をもって入試に挑戦していけるように、生徒の今と将来を繋いでいく。学び

の役割は生徒だが、その授業をデザインし、コーディネートするのが我々教員の役目である。生徒ひとりひとりのキャリア形成に向け、保護者や地域・企業の方々と更なる協力体制を構築していく。

1. 目標

確かな学力と豊かな人間性を併せ持つ総合的な生活力のある生徒を、地域社会と連携・協働して育成し、生徒の「今」を教科とつなぎ、地域社会とつなぎ、世界とつなぎ、未来とつなぐ。

2. 育てる力

- ・多様な人々の考え方や立場を理解し、意見を聞いて自分の考えを正しく伝えたり周囲と協力したりして様々なことに取り組む力。
- ・様々な体験を通して、社会規範やマナー等を学び取る力。
- ・学ぶことや働くことの意義を理解し、社会人や職業人として将来を設計する力。
- ・希望する進路の実現に向け、課題を明らかにし、それを解決するための計画を立て、実行する力。

3. 指導方針

- ・学校生活全般をキャリア教育の場と捉え、生徒ひとりひとりが主体的に取り組み、他者と協働して活動する機会を増やす。(HR 活動, 生徒会活動, クラブ活動, 学校行事, 授業, 進路研究, ボランティア活動, 検定取得 等)
- ・教科指導や課外活動、特別活動など、各取り組みのつながりを意識し、卒業後を見据えた系統的な指導を目指す。
- ・地域や世界の現実や様々な課題に目を向け、自己の生き方について生徒自身が考えを持てるように努める。
- ・実習、職場体験、進路ガイダンス、キャリアガイダンス等は事前・事後指導を大切にし、基礎的汎用的能力の向上を目指す。
- ・家庭や地域社会、大学、産業界等の支援のもと、連携して体験活動を推進する。
- ・ロイロノート等アプリを活用した事前・事後学習（振り返り）を行い、生徒自身が活動を振り返る資料とするとともに次年度の取り組みに生かす。

4. 取り組み（キャリア教育・探究活動推進係主催）

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、福祉施設等における生徒受け入れの自粛や外部業者等の校舎内への立ち入り禁止等、人と人との直接の接触が制限されることが多かったが、感染症対策を万全にして進路ガイダンスおよびキャリアガイダンスを企画。例年、夏休みに学年単位で実施していたキャリアガイダンスについては、密を避けるとともに生徒たちのより自発的な活動にするため、平日の放課後・土曜日・夏休み等の時間を活用し、年間を通じ・短時間・回数を増やして実施した。

①進路ガイダンス（進路指導委員会と連携）

- 5/31 1年生進路ガイダンス、2、3年生飯田女子短期大学（現飯田短期大学）見学
6/16 進路相談会
6/18 保護者対象進路ガイダンス
〈講師〉(株)ベネッセコーポレーション 深澤睦 様
〈内容〉親子で考える進路実現 ～今から考えて頂きたいこと～※オンライン実施
6/24 HLAB 主催 進路相談会（座談会）※オンライン実施
7/26 1年生 4年制大学進学希望者対象ガイダンス ※夏休み特別指導開講式にて
〈講師〉日本福祉大学 入試広報課進学アドバイザー 田中良二 先生
〈内容〉進路希望実現のために、1年生の夏休みにすべきこと
11/7 1・2年生 進路学習
〈内容〉1年生：大分野別説明会（株）昭英広報
2年生：小分野別相談会（株）昭栄広報

11/25 2年生 看護・医療系進学希望者対象ガイダンス（進路指導主事講話）

〈内容〉・入試までの流れ、学習への取り組み、校外模試について
・飯田短期大学 看護学科 指定校推薦基準等について 他

1/10 2年生進路ガイダンス（進路指導主事講話）

〈内容〉・校内選考会について、学校生活・学習への取り組みについて、心構え 他

②飯女と地元企業とを「つなぐ」ガイダンス

（飯田市産業振興課および「高校生と地元企業とをつなぐ事業」協力企業と連携）

大学等への進学により、地元を離れてしまう若者の割合が高い当地域において、高校生の早い段階から卒業後に地元で就職したいと思える動機付けを行うこと、職業観の形成や将来に向けて積極的な進路選択ができるようにすることを目標に産業界と連携し、地元企業のガイダンスを実施。卒業生も含めた様々な職業の方から実際にお話を伺った。

<実施例>

05/24 旭松食品株式会社

07/15 夏目光学株式会社

08/10 健和会病院

10/11 株式会社ジョイフル・テン

12/13 座光寺保育園

01/23 泰阜村社会福祉協議会

③変な大人 50 人に会う企画

世のため人のため自分の目標達成にむけて頑張る、熱い思いをもった様々な大人との出会いを設定。様々な人生観に触れることを通じて学習に対する内発的動機付けと主体的な進路選択につなげることを目標に行った。

<実施例>

04/28 本校非常勤講師・・・60歳で英語を始めて海外に3回留学した体験談

06/04 英語塾講師・・・Make a difference! 海外留学体験談

10/27 信州大学大学院生・・・本校進学コース卒業生に聞く! 大学院生活、海外進出のこと

12/01 アスパラ農家・・・元自衛官の専業主婦が独立して農業始めました

④学輪 IIDA 共通カリキュラム高大連携フィールドスタディ説明会開催および参加

地域を知る・大学の学びを知る・様々な人との出会いを通して視野を広げるための学びを紹介。大学生と一緒に地域を学ぶ魅力を伝えた。（オンライン実施）（飯田市と連携）

⑤「SDGs de 地方創生カードゲーム体験」企画・運営（長野県信州環境カレッジ協賛）

⑥職場体験案内

I：医療職体験（健和会病院主催）

II：福祉の職場体験（長野県社会福祉協議会主催）

⑦インターンシップ案内・調整

飯田市産業振興課「高校生と地元企業とをつなぐ事業」協力企業と連携

<実施例>

03/24 株式会社イダアックス（高森町・家具製造業）

⑧各種検定試験の案内および実施

英語検定、漢字検定、語彙読解力検定、数学検定、秘書検定、サービス接遇検定、ビジネス文書検定
パソコン検定、料理・菓子検定 他（係としては秘書検定・サービス接遇検定を担当）

⑨探究活動

<実施例>

4/30～5/1「シールド知っとる?展」道の駅 南信州とよおかマルシェ（豊丘村）

進学コースEクラス3年生1名が写真展、自作リーフレットの配布を行った。

5～10月 「2022 高校生発想の新しい家具を一緒に創ってみませんか」 イイダアックス（高森町）
総合コース3年生1名、進学コースSクラス1名が参加し、他校生とともに家具を考案。

8/11 「探究活動発表会」丘の上結いスクエア（飯田市）
進学コースEクラス4名が3年間の探究活動の成果を発表した。

〈内容〉

- ・味知の世界～味覚・視覚・嗅覚の関係を探る～
- ・男性×スカート～ジェンダーレス社会を目指して～
- ・小さな世界都市をめざして～飯田市と多文化共生～
- ・シードル知っとる？～シードルから考える地域ブランド～

9月 「スカート×男性～ジェンダーレス社会を目指して～」丘の上結いスクエア（飯田市）
進学コースEクラス3年生1名が写真展、自作写真集の配布を行った。

1/18 「マイプロジェクトアワード2022長野 summit」ホテル信濃路（長野市）
進学コースEクラス2年生2名が『『学校を売ろう！』プロジェクト』で出場、県知事賞受賞。

3/24～26 「マイプロジェクトアワード2022全国 summit」オンライン実施
進学コースEクラス2年生2名が『『学校を売ろう！』プロジェクト』で出場、ロールモデル賞受賞。

6. 中高・高大連携等

飯田女子短期大学との高大連携授業

- ・「心理学」3年生受講（飯田女子短大進学時の単位として認められる）
- ・本校「家庭科」への出張授業

1年次：「高齢者福祉」体験講座 太和田雅美先生 原義隆先生 伊藤みき先生
(2時間×2回×総合4+進学3クラス)

1年次：「子育て支援」講座 宮内愛先生 (2時間×進学3クラス)

2年次：「子育て支援」講座 宮内愛先生 (2時間×4クラス)

2年次：「家庭看護」講座 神澤絢子先生 (2時間×4クラス)

2年次：「子ども理解」講座 菱田博之先生 (2時間×4クラス)

3年次：「スポーツ栄養」調理実習 友竹浩之先生 (2時間×5クラス)

3年次：「子育て支援」講座 宮内愛先生 (2時間×1クラス選択授業)

3年次：「子育て支援施設（わいわい広場）」体験実習 宮内愛先生 (2時間×1クラス選択授業)

7. 生徒指導

①講演会

- ・4月8日（金）着こなしセミナー 対象：1学年184名

講師：株式会社トンボ 高貫菜穂氏

- ・4月20日（水）スマートフォン講演 対象：1学年186名

講師：セイフティーネット総合研究所 南澤信之氏

進学コースは直接話を聞き、総合コースは各クラスにオンラインでつなぎ聴講した。

②制服スラックスの検討

③YG検査の実施（1年生）

④学校生活アンケート実施

全学年：年2回（7月・11月）

アンケートにあわせて、ショート面談を実施

⑤立ち番指導、校内外巡視

定期的に立ち番指導を実施。挨拶奨励と着こなしの確認を行う。定期テスト期間等に校内外の巡視を行い、生徒観察を行う。

8. 課外活動

①生徒会活動

- ・生徒主体の活動が行われた。7月に第63回女子高祭が「PIECE～乙女の青春パズル計画～」というテーマのもと開催された。新型コロナウイルスの影響もありながらも、いかに楽しい文化祭を行うか生徒会役員会が計画を進め、昨年同様保護者のみ招待し、全校生徒の協力のもとおこなわれ、精一杯楽しんでいた。
- ・図書委員会では、学校司書の指導の下、毎月特集を組んで本の紹介をしたり、図書新聞を発行したり、より多くの生徒に図書館に親んでもらえるよう取り組みが行われた。読書旬間では、積極的な取り組みにより、図書館利用者が増加した。また、図書館前の廊下を季節に合わせて飾り付けをし、より多くの生徒に図書館を利用してもらえるよう工夫を凝らした。
- ・奉仕活動委員会では、新型コロナ感染拡大により校外でのボランティアの募集が激減した中で、依頼のあったボランティアに多くの生徒が参加できるよう紹介し、生徒の主体的な取り組みが見られた。
- ・環境整美委員会では、清掃活動に意欲的に取り組めるように呼びかけを行い、各行事前にはポイントを絞って清掃を行うことで、来校されたお客様が気持ちよく過ごせるよう環境作りを行った。
- ・保健委員会では、新型コロナウイルスによる感染症対策として、手洗いを呼びかけたり、ハンカチを持参しているか確認したり、校内の衛生管理を生徒自身も取り組めるよう活動を行った。

②ボランティア活動

- ・生徒会奉仕活動委員会がボランティア活動を紹介。多くの生徒が主体的にボランティア活動に参加している。今年度もコロナ禍のため、参加出来るボランティアは限られたが、年間で延べ51名が参加した。一昨年度より40名ほど参加者が減った。
- ・生徒は、ボランティア活動を通して、年齢の異なる人々、価値観の異なる人々、言語や文化が異なる人々など、様々な人々と関わった。多様な人たちと協働しながら活動を行い、コミュニケーション能力を高めた。また、自分の意思を表現することの難しさを体験するとともに、相手の思いを受けとめることの大切さを実感し、視野を広めている。

2022年度 ボランティア活動の記録

	活動日	募集日	締切日	参加日	参加者数	
1	かざこしこどもの森公園イベントボランティア	4月イベント	3月4日	3月18日	4/10・16	辞退6
2		5月イベント	4月21日	4月25日	5月4日	4
3		7月イベント	6月2日	6月24日	7/17・30	7
4		8月イベント	6月2日	7月15日	8/7・13	5
5		10月イベント	9月1日	9月21日	10月15日	2
6		3月イベント	1月19日	2月14日	3/18・19	5
7	おもしろ科学実験理科実験ミュージアム	4月	3月4日	3月18日	4/3・10・24	参加2・辞退6
8		5月	4月21日	4月25日	5/1・15・22・29	11
9		6月	5月12日	5月20日	6/5・26	7
10		8月	7月14日	7月21日	8/21・28	参加4・辞退2
11		11月	10月6日	10月18日	11月27日	4
12	飯田市サマーチャレンジボランティア	5月12日	5月31日	7/26～8/9 (中止)	不参加49	
					2022年度 延べ人数	51

(参考)2021年度 90

2020年度 59

③クラブ活動

- ・運動系 8、文化系 17、同好会 4。今年度も、活動時間などに制限がかかる場面もあったが、それぞれに出来る内容を考え工夫して活動を行った。また、ほとんどの競技、団体が通常に近い形で大会等が開催された。

クラブ活動実績

全国大会出場	弓道(総体=個人、新人=個人)、水泳、ソフトテニス、書道、写真、チアリーディング(ダンスドリル夏 CHEER 部門 2位依・冬 CHEER 部門 4位)、新体操
北信越大会出場	弓道(総体=個人、新人=個人・団体)、ソフトテニス(総体=個人)、水泳、バレーボール
インターハイ 県大会出場	弓道(個人=優勝)、ソフトボール、バレーボール(準優勝)、バスケットボール、バドミントン、ソフトテニス(個人=準優勝)、卓球(団体・ダブルス・シングルス、水泳、柔道)
新人戦県大会出場	弓道(個人=優勝 団体=2位)、卓球(団体・シングルス)、バレーボール、ソフトボール、ソフトテニス(個人)、水泳
文化系県大会結果	邦楽(最優秀賞)、写真(最優秀賞、優秀賞、奨励賞)、吹奏楽(B編成銀賞)

9. 地域活動(地域との連携・公開講座・PTA活動等)

①予定された発表はほとんど実施され、文化系クラブを中心に参加した。

邦楽	高森町下市田「桜を愛でる会」 麻績の里さくら祭り 上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」 丸山地区「観月の夕べ」 座光寺地域文化祭 飯田地区3ライオンズクラブ合同新年会アトラクション ロータリークラブ下伊那グループインターミッション アトラクション
ギターマンドリン	上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」 丸山地区「観月の夕べ」 座光寺地域文化祭
合唱同好会	上郷公民館「ふれあいさわやか音楽祭」
チアリーディング	とよおかまつり 南信州駅伝・ロードレース大会 松川町体育協会 60周年イベント ロータリークラブ下伊那グループインターミッション
茶道	天竜峡マルシェ
調理	野底山森林公園もみじ祭り

②新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外部と接触のある授業には最新の注意を払い、様々な対策を施した上で実施。

- ・上郷図書館司書による絵本の読み聞かせ講座(2時間×2年総合コース4クラス)
- ・上郷図書館司書による紙芝居講座(3年選択者)
- ・上郷図書館司書によるわらべうた講座(3年選択者)
- ・飯田市立座光寺保育園……2年総合コース4クラス1回ずつ実施
- ・認定こども園慈光幼稚園……2年総合コース4クラス1回ずつ
- ・認定こども園聖クララ幼稚園……「発達と保育」(3年選択者)3回→感染拡大により1回に
- ・認定こども園聖クララ幼稚園……「発達と保育」(3年選択者)夏休み預かり保育体験実習
- ・飯田市立上郷西保育園……「発達と保育」(3年選択者)3回
- ・飯田市立上郷西保育園園長との座談会……「発達と保育」(3年選択者)1回
- ・子育て支援施設わいわい広場……「発達と保育」(3年選択者)1回
- ・飯伊調理師会による「魚のさばき方」講座(2時間×3年総合コース5クラス)
- ・飯田市健康づくり支援課による講座(2時間×1年総合コース4クラス・進学コース3クラス)
- ・JAみなみ信州女性部による「郷土料理」講座(2時間×3年総合コース5クラス)

- ③飯田小売酒販組合からの依頼を受け、「20歳未満飲酒防止および飲酒運転撲滅キャンペーン」の啓発チラシを生徒に配布。
- ④PTA研修旅行は12月3日に東本願寺を目的地として実施（参加者26名）
- ⑤保護者対象の公開講座は計画と実施を見合わせた。
- ⑥第7回母校成人式開催は中止。
- ⑦1月30日（月）～2月6日（月） 飯田市消費生活センター「賢い消費者になるために」講座（2時間×1年生7クラス）は昨年に引き続き実施した。
- ⑧幼児教育分野進学希望者による「こどものもり」を4年ぶりに、規模縮小して2月4日（土）に開催。募集人数を100組限定から20組限定に縮小。時間を10:00～11:40の100分間に短縮した。

10. 教育環境の整備

①学習環境の充実

- ・「夜ガク」として下校時間から20時30分まで希望者による自主学習が認知され学習時間の確保につながっている。
- ・学力把握のために業者テストを取り入れ1・2年生全員対象に実力診断テストを4月と8月の2回実施した。
- ・ロイロノートの基本的な使用でも十分効果が期待できる。今後は様々な場面での利用が考えられるが最低限の使用法の約束が教員生徒含めて必要ではあるが、どこに線を引くか引かないかが検討事項である。

②設備の充実

- ・WiFi環境など少しずつ整備している。校務システムに学校の帳票等合わせていく。校務の効率化を促し生徒指導の時間を増やしていく。ずっと示しているが、学園としてのスケールメリットを活かしておらず明らかに効率が悪い。こういう場面でこそ学園として動き、学園全体でもICT設備もふくめて連携していき教育環境の充実を図らなければ、今後国が主体で行うGIGAスクール構想の中の教育活動において他の教育機関から大きく後れを取る懸念がある。

11. その他

- ・学校関係者評価としてアドバイスをいただいている学校評議員会を6月24日・12月22日・3月20日の3回実施。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による休校や分散登校（短縮授業）、各行事や諸活動の中止・延期・縮小となった。
- ・その中でも募集活動に力を入れ、募集行事に新たな取り組みを加えた。
 - ①第1回体験入学…7月 ABのグループに分け分散で実施。中学生293名、引率者22名参加。※保護者入場不可。同日午後、保護者説明会実施。91名参加。
 - ②オンライン学校説明会…9月 51名参加。株式会社「週休いつか」に依頼。
 - ③第2回体験入学…10月実施。中学生74名、引率者12名参加。
※保護者入場不可。終了後、クラブ自由見学実施。
 - ④第1回進学説明会…11月実施 中学生105名、保護者89名参加。
 - ⑤第2回進学説明会…12月実施 中学生95名、保護者84名参加。
 - ⑥入試相談会…1月 来場型のみで実施。相談件数32件。
 - ⑦入試相談WEEK…2月 オンライン型のみで実施。相談件数3件。
- 例年通り「IJJ0アピール隊」を立ち上げ、中学生の前に立ち、受付・案内・学校説明等、本校生徒が主体的に取り組める機会を設けた。
- 体験入学への保護者参加を2回とも見合わせた。その代わりに、保護者説明会を別立てで実施。本校に直接来校して体感してもらう機会の重要性を再認識しつつ、直接見に来なくても、本校の良さ等を発信できる方法を模索し、実施。今年度は「中学生・保護者・教育関係者対象オンライン説明会」「ZOOMによる入試相談会・入試相談WEEK」を実施した。

- ・月に一度、自立できる生活実践力を身につける目的で「お弁当の日」を設け、家庭科の授業で学んだことを実生活の場で生かす機会とした。今年度は9回実施。保護者の理解や協力が十分得られて、生徒も教職員も意欲的に取り組むことができた。
- ・国際教育では、今年度は文科省による、昨年来停止していた海外からの留学生受け入れ再開を受け、AFSの要請もあり、ラオスからの生徒1名を迎え入れた。期間は、感染拡大の影響もあったが、7月11日から2月28日までの期間、留学生はもちろん在校生への教育的な効果もあり有意義であった。
 - ・長野県教育委員会主催「信州つばさプロジェクト」の参加者に2年生1名が選抜され「グローバル・インターンシップコース」に参加した。マレーシアでの1週間(3/16~3/22)にわたる研修に参加し、現地の日系企業の視察や現地学生との交流を行い、帰国後の2023年4/20に校内報告会を行った。
- ・校内職員研修

校内職員研修において、感染症拡大防止対策を取りながら、研修や出張等を実施した。

 - 4月23日(土) AED講習会
 - 4月28日(木) 釈尊降誕会事前勉強会「釈尊降誕会をお勤めするにあたって」(講師:宗教科)
 - 6月8日(水) 校内職員研修(講師:ベネッセ)
 - 8月17日(水)、23日(火) 初任者研修兼2・3年次研修(講師:湯澤直人教諭)
 - 9月5日(月)、6日(水) 教育課程県有協議会 複数職員参加(ZOOMにて)
 - 9月28日(水)~30日(金) 真宗教育研修会(京都) 参加職員:三澤教諭・湯沢保教諭
 - 10月28日(金) 長野県私学教育研修会(松商学園) ※複数職員参加
 - 2月2日(水) 宗教科高松祐真教諭研究授業実施
 - 3月19日(月)~21日 京都大谷高等学校へ出張(京都) 参加職員:長沼教諭・堀内教諭
- ・学校ホームページは適宜リニューアルや更新に努めるとともに、昨年度に引き続きは学校に来校しなくても魅力を発信できるように思案し、「開かれた学校」のアピールに心がけとくに「女子高ニュース」の最新記事のアップの頻度を向上させた。また、入学式や始業式における学校長の式辞や講話の掲載等、感染症対策などの通知をHOMEの「Topics」より閲覧できるようにするなど係の努力で内容を充実させた。

<通信制課程>

1. 在籍生徒数の推移について

開設6年目となった2022年度は、20名の新入生が入学した<全校数は前期末は75名(昨年度比+12名)、後期末は84名(昨年度比+14名)>。年々人数が増加している。その背景には、本校の通信制が中学校から認知されていることだけでなく、出願前の個別相談から通信制を明確に希望している保護者と生徒が年々増えていると感じられた。このことから、本校通信制が地域に必要とされていることを表している。入学や転学の理由は、①小中学から特別支援が必要な生徒②集団や人間関係のストレスを感じている生徒③不登校やその傾向ある生徒④健康上の理由のある生徒などである。

2022年度の課程変更生、転入生は17名(昨年度比-11名)であった。コロナ禍での影響により休業が少なくなり、通常登校ができるようになったことが影響していると推測される。

2022年度の卒業生は前期0名、後期21名であった。卒業式は新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するため、3密(密集・密接・密閉)を避けて、卒業生と保護者1名、関係教職員で挙行された。これで、卒業生数の累計は100名を越え、110名になった。

2. 通信制学籍変動について

		前期					後期					
		在籍 前年度 後期末	新入生	転入生	編入生	課程 変更生	前期末 在籍	新入生	転入生	編入生	課程 変更生	
高1相当	週3		14	0	0	1	11	1	2	0	1	
	週1		6	0	0	1	11	0	1	0	0	
	休学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計		22					27				
高2相当	週3	13	0	0	0	2	12		1	0	1	
	週1	13	0	0	0	1	16		0	0	1	
	休学	3		0	0	0	3		0	0	0	
	小計		32					34				
高3相当	週3	2	0	0	0	0	2		0	0	2	
	週1	16	0	2	0	1	18		0	0	0	
	休学	0		0	0	0	1	0	0	0	0	
	小計		21					23				
合計			75					84				
卒業			0					21				

3. 新型コロナウイルスにおける学校運営について

(1) 通常の通学型で運営

2022年度も、2021年度に引き続き新型コロナウイルスの感染症対策をして通常の学校活動をするという方針で、週1日通学型と週3日通学型を実施し、スクーリングについては新型コロナウイルスの影響がなく実施できた。

(2) 特別活動

新型コロナウイルス感染状況と対策をして実施した。残念ながら、6月9日(木)～10日(金)に予定していた3年に一度の1泊2日の東本願研修旅行は新型コロナウイルス感染状況により延期とし、代替として安曇野への日帰り旅行を実施した。東本願寺研修は日程を調整し、日帰り参拝を9月に実施した。

- 4月27日(水)ハーバリウム作り
- 5月11日(水)釈尊降誕生会
- 6月10日(金)安曇野市遠足(新型コロナウイルスの感染状況により東本願寺研修延期の代替行事)
- 9月27日(火)東本願寺参拝旅行
- 10月19日(水)芸術鑑賞(センゲキシネマズで映画鑑賞)
- 11月11日(金)パターゴルフ(下條村リフレッシュパーク)
- 11月17日(木)報恩講

4. 施設の整備について

遮光のレースカーテンを特 103 教室の一部に設置。

5. 卒業生の進路 ※の学校は指定校推薦で進学

進路	人数	進路先
大 学	1名	・鈴鹿医療大学(保健衛生学部リハビリテーション学科)
短期大学	3名	・飯田短期大学(生活学科)・戸坂女子短期大学(食物栄養学科) ・愛知大学短期大学(ライフデザイン総合学科)
専門学校	8名	・松本美容理容専門学校 ・セントラルトリミングアカデミー ・愛知ペット専門学校・アミューズメントメディア総合学院 ・愛知服飾専門学校・名古屋外語 ホテル ブライダル専門学校 ・※丸の内ビジネス専門学校・中日美容専門学校
就 職	4名	・小林製袋・チャンピオン共和観光・多摩川マイクロテップ ・自衛隊一般曹
アルバイト	2名	
未 定	3名	

6. 生徒募集について

2022年度は南信教育事務所主催の「不登校生徒の進学相談会」が例年通り2回開催された。飯田会場にブースを設け、対応した。本校への進学を選択肢に加え、真剣に相談する親子の姿を見ると、生徒募集の大きな可能性を感じる。中学1,2年生の保護者にも対応した。進路に向けて早めの情報を知りたいということであった。情報化社会でも対面での相談会も重要だと感じられた。

10月に中学生、保護者対象に通信制説明会実施。11月以降は随時個別で説明と個別相談を実施した。個別相談では、2023年度も2022年度同様に本校通信制を第一希望で受験する中学生、保護者の相談が多かった。よって、2023年度の新入生は2022年度の19名を上回る入学生が見込まれる。

【伊那西高等学校】

1. 教育活動（教育方針・カリキュラムの特長・今年度の変更点等）

伊那西高等学校では、今年度で38年目を終了した。建学の精神に則り、全学年毎週1時間の「仏教」の授業を行っている。宗教教育が本校の諸活動の源流にあり、「今日、ここに命ある私」に感謝できる心を育てたいと願っている。

通常の授業については、生徒の多様なニーズに応えるべく、「演習科目」や「選択授業」を多数取り入れ、進路に直結するような授業展開を図った。また、学力的に苦しい生徒を対象とした「補習」の実施や、きめ細かな習熟度別授業など、多様な生徒に対する取り組みを深化させた。特に「学び直し」に着目し、生徒が個の目標を到達するための基礎固めをしたいと考え、実施してきている。また、今年度は、新たに1年生全員にタブレット端末を貸し出し、1・2年生がタブレット端末を用いての授業を受講できることになった。タブレット端末は授業での利用はもちろんのこと、ICT教育やアクティブラーニング、またはクラブ活動など、多様な面での活用ができています。電子黒板やプロジェクターを利用した授業も増え、視覚や聴覚を刺激しながらの授業展開とすることで、生徒の授業に対する取り組みがより一層深まり、理解度も増した。

コロナ禍を受けて、ZOOMやYOUTUBUを用いた遠隔授業や行事を行うことにも積極的に取り組んだ。

オンライン授業の限界を理解しつつも、不登校傾向の生徒に対する指導や、天候の悪化などにより登校に支障が生じた場合などの、有用性を利用していかなければならないと思っている。中教審の答申あるいは法改正より、オンラインでの受講も出席と見なすという方向性が示されている、それに沿った形で、本校としてのガイドラインの外郭を整えることができた。来年度は、このガイドラインに基づいた運用を慎重さを担保した上で運用していきたい。

3年前、計画を立てながらコロナ禍により実施できなかったニュージーランド短期留学を実現できた。生徒11名が参加し、12日間の日程ではあったが、充実した時間を過ごすことができた。生徒並びに保護者からも良好な感想を得ており、今後、発展的に継続していくことが望まれる。さらに、中長期の留学制度を設立していきたい。

公立高校の授業料無償化、あるいは当該地区の公立高校の余裕を持った定員設定により、来年度新入生については、大きく定員を欠く結果となってしまった。通学内のほとんどの公立高校が定員割れを起こしている中でもあり、ますます生徒募集については工夫と努力が必要とされる。今後本校の良さをいかにアピールしていくか、また、そのためにはどんな生徒を育てていくかを明確に打ち出し、実質的な教育成果を上げていく必要がある。

来年度は、コロナ禍がほぼ終息した中での学校運営が可能になってくると考える。この3年間、諸行事やクラブ活動、地域との協働活動など、縮小あるいは取りやめが相次ぎ、従前のかたちが教員並びに生徒の中にイメージできないものも増えてきている。縮小あるいは、取りやめが結果的に功を奏しているものもあるだろうが、来年度については、できるだけ従前のあり方に近づけて実施し、その後のあり方を考える機会としたい。そのためには、特に教員には多大な労力を課すことになるだろうが、本校の良さを維持していくためには必要な措置である。理解を得ながら進めたい。

来年度以降、将来的な展望に立ち、本校のあり方についての議論を活発化させたい。

2. クラブ活動

今年度も、コロナ禍にあって、各種大会やコンクール、演奏会などが制限されることとなったが、生徒はその中において、与えられた機会を有効に利用し、それぞれが精一杯のパフォーマンスを見せてくれ、地域からの評価を得ることもできた。

文化祭（西高祭）においても、例年の規模を大幅に縮小しての実施となったが、それにめげることなく、努力を惜しまない生徒の姿は感動に値するものであった。また、教員の工夫と努力は並々ならないものであったことを明記しておきたい。

<新体操クラブ>

インターハイ 県大会個人2・3位・団体優勝
全国大会 団体準優勝
国体 団体1位、総合準優勝
全国高校選抜大会 団体14位 他多数

<スケート>

インターハイ出場
全国高校選抜大会出場

<水泳>

インターハイ北信越大会出場

<陸上>

長野県高校駅伝3位
春の伊那駅伝 県内3位 他多数

<弓道>

新人戦県大会 個人9位 他多数

<卓球>

インターハイ南信大会 団体優勝、ダブルス優勝
県大会 ベスト8
新人戦南信大会 団体優勝、シングルス3位
県大会 団体3位
全国選抜大会出場 他多数

<ソフトボール>

インターハイ南信大会優勝 県大会ベスト8
新人戦南信大会準優勝

<バスケットボール>

インターハイ南信大会 4位
県大会 ベスト16
新人戦南信大会 3位

<バレーボール>

インターハイ県大会出場
新人戦県大会出場

<フェンシング>

インターハイ県大会 エペ2位
インターハイ出場
新人戦県大会出場

<写真クラブ>

全国高等学校総合文化祭奨励賞
長野県高等学校写真展 優秀賞 優良賞 入選
長野県高等学校フォトコンテスト 特選 他多数

<演劇>

上伊那地区高等学校演劇合同発表会にて上演
長野県高等学校演劇連盟創作脚本賞（優良賞）

<文芸>

長野県高等学校文芸コンクール短歌部門 優秀賞・佳作
全国高等学校文芸コンクール短歌部門入選（来年度総文祭への参加）

<美術>

伊那美術展 ジュニア準大賞・養命酒賞 ジュニア奨励賞
長野県美術展 第一法規賞 入選6名 他多数

<書道>

長野県高等学校書道展覧会県フェスティバル（全国高等学校総合文化祭へ出品）
岐阜女子大学全国書道展 長野県賞
驪山館全国書初展覧会特選
高野山競書大会推薦 他多数

<吹奏楽>

各種コンクール、演奏会への参加 など

<インターアクトクラブ>

各種ボランティア参加 など

<英語研究>

各種スピーチコンテストなどへの出場 など

<お箏>

長野県高等学校邦楽フェスティバル 優良賞 など

また、かんでんばホールをお借りして開催した「伊那西高等学校芸術フェスティバル」は、多くの来場者を得て成功裏に終わった。今年度はコロナ渦により、例年行われていた茶華道クラブによる呈茶は行われなかった。

全生徒中約9割がクラブに所属しており、各クラブともその特性を生かして熱心に活動しており、その活動の中から生徒が得るものも大きい。

3. 地域活動（地域との連携・公開講座等）

JR飯田線沢渡駅の無人化に伴い、生徒による清掃活動を開始し、10年目となった。これは、駅舎の美化にとどまらず、地域との連携が深まり、また生徒の意識向上にもつながる活動となっている。また、駅舎内に設けられた展示スペースの利用は本校に委託されており、文化クラブの発表を中心として、年間を通じて発表の場所となっている。

今年度はコロナ渦により、ボランティア活動や吹奏楽の招待演奏会、お琴クラブの地元敬老会、地元公民館主催事業への協力など、例年実施してきた活動が制限されることも多かったが、その中においてもいくつかのご依頼をいただき、参加できた。

4. 進学・就職状況（本年度様子・傾向・特記事項等）

卒業生総数125名中、進学105名、就職14名、その他6名であった。

進学者では、4年制大学41.9%、短期大学28.6%（内約86.7%が飯田女子短期大学）、専門学校29.5%（内約29.0%が医療系）であった。

進学では、国公立大学4名の他、MARCH、日東駒専レベル以上にも多数の合格があり、生徒並びに教員の健闘が評価できる年となった。

就職者は、ほとんどが地元有力企業を中心として就職している。コロナ渦にあつて安定的な就職状況とは言いがたい中にあつたが、すべての生徒が早い時期に内定をいただき取消もなかった。

日頃の学校生活を通し、自己肯定感を生徒それぞれが高めることにより、自分に合った進路獲得ができると考えている。

5. 中高・高大連携等

1. 飯田女子短期大学との高大連携の強化により、飯田女子短期大学へ入学後、本校で受講した講義の単位が認められる制度を継続した。

2. 大谷大学等の高大連携授業は、オンラインと対面のよって実施された。
3. 地元中学校との交流会、授業研究会。
6. 教育環境の整備
 1. 1・2年生全員にタブレット端末を貸し出し配布し、ICT教育の充実を図った。
 2. プロジェクター、電子黒板を増やし、ICT教育の充実を図った。
7. その他

【幼保連携型認定こども園慈光幼稚園】

1, 教育・保育活動

下記のような教育及び保育の目標の下、質の高い教育・保育に努めた。

「本園は、乳幼児期における教育及び保育が、生涯にわたる人間形成の基礎、生きる力の基礎を培うものであることを踏まえ、一人ひとりの子どもが、感謝の念を持ち、生きる喜びを感得できるよう、認定こども園法第9条に示された次に掲げる目標の達成に努める。」

- (1) 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- (2) 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- (3) 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- (4) 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- (5) 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- (6) 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

○コロナ禍3年目となり、園児の教育・保育のために必要な内容を考え、感染拡大予防を行いながら、行事をできるだけ実施してきた。PTA行事も、参加者の簡易検査キットによる自己検査を取り入れ再開。

2, 教育体制

◎昨年と同様、副園長・主任を置くことにより、職員の資質向上、教育・保育の質の向上を推進することができた。

◎年少の人数が減少したため、23人と14人の2クラスとした。23人のクラスは、副担任を配置。また、空き部屋とのパーティションを撤去し、2部屋分の空間で通年保育を行った。初の試みで、保護者は心配もあったようだが、園児に例年とほぼ同様の成長があり、年度末には安心していただけた。

◎1歳児が多く、0歳クラスを0,1歳児クラスとした。例年同様満3歳児・未満児途中入園が20人あった。

◎職員の専門リーダーにマネジメント分野の研修を受講させ、後進指導に当たれるようにした。

3, 令和4年度の重点目標

- I、子どもが遊ぶ中で、自分なりに遊びへの思いをもち、「発見」「試行」「想像力の発揮」などを通し、自分なりのやり方で、或いは友達と協力しながら、発達に必要な体験や学習を重ねていく姿を大切にする。
- II、屋外活動を充実させ、園内の自然環境や地域の自然を日々の保育に積極的に取り入れていくと共に、地域の文化等にも触れ、ESD（持続可能な開発のための教育）による幼児教育に取り組むようにする。
- III、保護者と保育教諭等が互いに連携し協働の精神をもって子ども達の教育・保育を行うようにする。

4, 地域との関連

(1) 園行事の地域公開

コロナ禍で外部の方を招待できず不実施。

(2) 未就園児親子登園（さくらんぼ）

コロナによる学級閉鎖や近隣の感染者増加により、年間11回予定のところ7回のみ実施。

登録 20 組中、途中入園 5 名、令和 5 年度年少新入児が 8 名と、入園に繋がるケースが増加。

(3) 地域行事への参加

- 橋北地区『にこやか健康教室』に年長児が 3 回参加し、地域のお年寄りと交流。
- 橋北地区文化祭で、これまでの園児と地域との交流の様子を展示。
- いいだ人形劇フェスタのウェルカム人形展へ、年長が製作した人形を出展。

(4) 地域の人材活用

- 未就園児親子登園・・・元飯田女子短期大学教授 田中美智子氏
- 職員研修・・・浜井場小学校長 木下潤児氏

(5) 地域との交流

- 信菱電機株式会社より招かれ、年長児が工場を見学。

5、進学小学校

[飯 田 市] 浜井場小学校 追手町小学校 丸山小学校 上郷小学校 鼎小学校
伊賀良小学校 座光寺小学校 松尾小学校 山本小学校 川路小学校
[下伊那郡] 喬木第一小学校 高森南小学校
[県 内] 下諏訪町：下諏訪北小学校 [県 外] 横浜市：市ヶ尾小学校

6、研修・研究

(1) 園外研修

常勤職員を中心に延べ 27 (内、オンライン 16) の研修会に参加。研修後、研修報告により共通理解・研修未受講者の資質向上を図った。

(2) 園内研修

- 園内研究テーマ『保育者の資質向上を目指して～繋ぐ、サステナブルな未来へ～』
- ①研究保育・・・年中担任 1 名、年少担任 1 名が実施。
 - ②ESD の実践・・・教育・保育を SDGs の視点で考えたり、教育に取り入れた。
 - ③外部講師を招いて絵画・造形研修会の実施。

7、教育実習・保育体験・職場体験の受け入れ

- (1)教育実習・・・飯田女子短期大学 愛知淑徳大学 中部大学
- (2)保育体験・・・飯田女子高等学校
- (3)職場体験・・・感染拡大により中止

8、環境の整備 建物・設備

- ◎業者による各種遊具の安全点検
- ◎蛍光灯の LED 化(1 階) ◎お山のすべり台周辺改修工事
- ◎園舎内無線 LAN 配線工事 ◎汎用パソコン買替え
- ◎年長テーブル購入(飯田市令和 4 年度保育対策総合支援事業費補助金利用)
- ◎スクールバススモークガラス交換(置き去り事故を受け)

9、新型コロナウイルス感染症関連

(1) 休園及び学級閉鎖

- ①休園 4 月 11 日(月)～13 日(水)
- ②学級閉鎖
 - 3 歳以上児・・・5 回 (3 クラス)
 - 5/20～24、9/26・27、9/28～10/2、10/6～9、12/23～29

○3歳未満児・・・3回（3クラス）

5/23～25、8/20～8/23、11/29～12/2

※ 職員が出勤できるようにするため、飯田市より無料提供の薬事承認された簡易検査キットを有効に活用。

(2)その他

○以上児誕生会の保育参加の再開（午前中のみ）。

○祖父母参観を3年振りに実施。参観の様子を録画しYouTubeで限定公開。

10, その他

○スクールバス安全対策マニュアルを作成

Ⅲ. 財務の概要

年度当初の学園全体の学生・生徒・園児数（以下「学生数」という。）は、前年比73名の減少となり、収入面では学生生徒等納付金収入は、前年度比で△5,914万と大幅な減収となった。学生数の減少は、今後も続くと予想され、納付金収入のさらなる減少が懸念されるため、募集活動の強化による学生数確保が課題となる。また、特に短期大学においては、教育の質の向上による補助金の確保および科研費等の外部資金獲得に積極的に取り組み、教育活動活性化も合わせた取り組みの必要がある。

支出面では、人件費は、前年比2,899万増となったが、退職金を除くと前年比減となっている。新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残っていたが、前年同様に教育活動が活発に行われるようになり、教育研究経費等の支出は前年と同水準で推移した。事業活動収入は前年比△3,492万となり支出は逆に2,875万増となり、収支面で苦しい状況となった。また、人件費比率は増え、依然として支出全体に占める割合が高い状況であり、常に収支バランスが保てるような体制づくりが必要となる。

結果として学園全体の基本金組入前当年度収支差額は、△8,7286万円の支出超過であった。前年度に引き続き依然マイナス収支であり、単年度の支出超過は、一定の資産の維持及び設備更新時の資金を取崩している状況であることを示しており、今後は、策定された中長期計画に基づいた、学園経営健全化に向けた取組のなかで、収入超過を目指し、施設・設備等の維持・更新等に必要となる費用を確保できる財政状態に転換していきたい。

建学の精神に基づいた教育を軸としつつ、今の時代や学生・生徒のニーズに応えられる学園、そして、地域社会に認められる学園となるよう努力を続けていきたい。

本学園の令和2年度～令和4年度の資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表はそれぞれ別表（表A～表C）のとおりである。

令和4年度 事業報告書（財務関係）

表A 学校法人高松学園資金収支計算書

(単位 円)

年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
科 目				
資 金 収 入	学生生徒等納付金収入	1,192,040,998	1,197,310,792	1,138,174,490
	手数料収入	11,944,024	11,269,739	11,899,825
	寄付金収入	6,952,964	8,022,519	9,129,716
	補助金収入	551,760,888	553,900,030	535,622,936
	資産売却収入	295,482	0	63,930
	付随事業・収益事業収入	45,932,423	34,383,106	31,192,269
	受取利息・配当金収入	165,411	114,181	1,109,206
	雑収入	111,768,978	58,999,806	100,964,362
	前受金収入	347,253,410	326,655,960	333,333,875
	その他の収入	212,556,496	231,197,006	560,904,839
	資金収入調整勘定	△ 456,156,924	△ 411,635,593	△ 439,645,098
	前年度繰越支払資金	787,774,436	859,950,952	950,697,487
	合 計	2,812,288,586	2,870,168,498	3,233,447,837
	資 金 支 出	人件費支出	1,429,973,928	1,346,691,067
教育研究経費支出		232,336,735	259,237,916	261,569,055
管理経費支出		85,232,385	83,257,047	84,199,538
借入金等利息支出		2,412,160	2,195,127	1,978,910
借入金等返済支出		46,080,000	46,080,000	46,080,000
施設関係支出		4,973,920	22,620,454	21,485,402
設備関係支出		16,485,778	12,535,541	22,780,395
資産運用支出		62,000,000	65,000,040	421,605,268
その他の支出		91,948,880	103,515,439	92,643,590
資金支出調整勘定		△ 19,106,152	△ 21,661,620	△ 44,384,207
次年度繰越支払資金		859,950,952	950,697,487	949,804,311
合 計		2,812,288,586	2,870,168,498	3,233,447,837

表B 学校法人高松学園事業活動収支計算書

(単位 円)

科 目		年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動 収入 支出	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,192,040,998	1,197,310,792	1,138,174,490
		手数料	11,944,024	11,269,739	11,899,825
		寄付金	5,852,964	6,522,519	7,829,716
		経常費等補助金	547,523,888	552,955,030	535,122,936
		付随事業収入	45,932,423	34,383,106	31,192,269
		雑収入	111,781,038	59,077,445	100,964,362
		教育活動収入計	1,915,075,335	1,861,518,631	1,825,183,598
	事業活動支出の部	人件費	1,425,037,360	1,342,201,743	1,378,128,973
		教育研究経費	406,575,292	432,995,876	434,263,159
		(うち減価償却額)	174,238,557	173,757,960	172,494,104
		管理経費	98,366,108	96,088,736	97,185,402
		(うち減価償却額)	13,097,198	12,831,563	12,985,864
		教育活動支出計	1,929,978,760	1,871,286,355	1,909,577,534
		教育活動収支差額	△ 14,903,425	△ 9,767,724	△ 84,393,936
教育活動外 収入 支出	事業活動収入の部	受取利息・配当金	165,411	114,181	1,109,206
		教育活動外収入計	165,411	114,181	1,109,206
	事業活動支出の部	借入金等利息	2,412,160	2,195,127	1,978,910
		教育活動支出計	2,412,160	2,195,127	1,978,910
		教育活動収支差額	△ 2,246,749	△ 2,080,946	△ 869,704
経常収支差額		△ 17,150,174	△ 11,848,670	△ 85,263,640	
特別 収入 支出	事業活動収入の部	資産売却差額	295,482	0	63,929
		その他の特別収入	5,337,000	2,445,000	2,800,000
		特別収入計	5,632,482	2,445,000	2,863,929
	事業活動支出の部	資産処分差額	6,122,539	14,209,775	4,885,857
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	6,122,539	14,209,775	4,885,857
		特別収支差額	△ 490,057	△ 11,764,775	△ 2,021,928
基本金組入前当年度収支差額		△ 17,640,231	△ 23,613,445	△ 87,285,568	
基本金組入額合計		△ 52,486,034	△ 38,951,425	△ 69,690,603	
当年度収支差額		△ 70,126,265	△ 62,564,870	△ 156,976,171	
前年度繰越収支差額		△ 2,799,633,222	△ 2,869,759,487	△ 2,932,324,657	
基本金取崩額合計		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 2,896,759,487	△ 2,932,324,357	3,089,300,528	

(参考)

事業活動収入計	1,920,873,228	1,864,077,812	1,829,156,733
事業活動支出計	1,938,513,459	1,887,691,257	1,916,442,301

表C 学校法人高松学園貸借対照表

(単位 円)

資 産 の 部				令和2年度	令和3年度	令和4年度
科	目			令和2年度	令和3年度	令和4年度
固	定	資	産	6,391,657,422	6,245,671,672	6,096,196,911
	有	形	固	5,247,371,430	5,081,805,640	4,936,505,611
		土	地	300,272,616	300,272,616	309,692,318
		建	物	4,576,564,374	4,418,521,995	4,270,141,028
		構	築	37,844,996	52,566,778	47,305,234
		教	育	56,349,705	47,193,018	44,631,129
		管	理	3,971,167	3,512,910	3,371,075
		図	書	264,177,246	257,785,867	258,431,190
		車	輛	5,102,526	1,952,456	2,933,637
		建	設	3,088,800	0	0
特	定	資	産	1,124,447,104	1,144,447,144	1,144,447,184
	校	舎	新	367,000,000	367,000,000	367,000,000
	施	設	設	611,447,104	611,447,144	611,447,184
	退	職	給	101,000,000	101,000,000	101,000,000
	運	用	資	45,000,000	65,000,000	65,000,000
そ	の	他	の	19,838,888	19,418,888	15,244,116
	借	地	権	7,200,000	7,200,000	7,200,000
	電	話	加	695,278	695,278	695,278
	有	価	証	1,001,000	1,001,000	1,001,000
	差	入	れ	8,662,610	8,662,610	5,267,838
	長	期	貸	2,280,000	1,860,000	1,080,000
流	動	資	産	975,906,776	1,018,241,000	1,064,777,602
	現	金	及	859,950,952	950,697,487	949,804,311
	未	収	入	112,093,234	64,382,183	112,989,138
	短	期	貸	900,000	780,000	540,000
	前	払	金	2,790,200	2,208,940	1,270,563
	預	け	金	172,390	172,390	173,590
資	産	の	部	7,367,564,198	7,263,912,672	7,160,974,513
負 債 の 部						
科	目			令和2年度	令和3年度	令和4年度
固	定	負	債	692,448,768	642,154,444	598,242,842
	長	期	借	407,200,000	361,120,000	315,040,000
	退	職	給	285,248,768	280,759,444	283,202,842
	長	期	未	0	275,000	0
流	動	負	債	493,114,804	463,371,047	491,630,558
	短	期	借	46,080,000	46,080,000	46,080,000
	未	払	金	20,021,513	18,211,315	41,724,307
	前	受	金	347,253,410	326,655,960	333,333,875
	預	り	金	79,759,881	72,423,772	70,492,376
負	債	の	部	1,185,563,572	1,105,525,491	1,089,873,400
純 資 産 の 部						
科	目			令和2年度	令和3年度	令和4年度
基	本	金		9,051,760,113	9,090,711,538	9,160,402,141
	第	1	号	8,898,760,113	8,937,711,538	9,007,402,141
	第	4	号	153,000,000	153,000,000	153,000,000
繰	越	収	支	△ 2,869,759,487	△ 2,932,324,357	△ 3,089,301,028
	翌	年	度	△ 2,869,759,487	△ 2,932,324,357	△ 3,089,301,028
純	資	産	の	6,182,000,626	6,158,387,181	6,071,101,113
負	債	及	び	7,367,564,198	7,263,912,672	7,160,974,513